

# 2級ボイラー技士模擬問題集

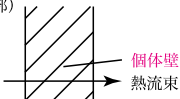
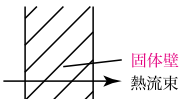
(第1版第1刷)

## 正誤表

ISBNコード：978-4-485-21306-3

発行日：2015年 4月 13日

作成日：2016年 2月 17日

頁	誤	正																																				
53	問2 解説の図(上部) 																																					
57	5行目 $Q = C \cdot A_0 \cdot \sqrt{2(p_1 - p_2)} \propto \sqrt{(p_1 - p_2)}$	$Q = C \cdot A_0 \cdot \sqrt{2\rho(p_1 - p_2)} \propto \sqrt{(p_1 - p_2)}$																																				
246	模擬問題4(問38)の選択肢 <table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="text-align:center">A</td> <td style="text-align:center">B</td> <td style="text-align:center">C</td> </tr> <tr> <td>(1) 配管</td> <td style="color:red">煙道</td> <td>性能</td> </tr> <tr> <td>(2) 配管</td> <td>通風装置</td> <td>使用</td> </tr> <tr> <td>(3) 自動制御装置</td> <td>通風装置</td> <td>性能</td> </tr> <tr> <td>(4) 自動制御装置</td> <td>煙突</td> <td>使用</td> </tr> <tr> <td>(5) 附属品</td> <td style="color:red">煙道</td> <td>使用</td> </tr> </table>	A	B	C	(1) 配管	煙道	性能	(2) 配管	通風装置	使用	(3) 自動制御装置	通風装置	性能	(4) 自動制御装置	煙突	使用	(5) 附属品	煙道	使用	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="text-align:center">A</td> <td style="text-align:center">B</td> <td style="text-align:center">C</td> </tr> <tr> <td>(1) 配管</td> <td style="color:red">据付基礎</td> <td>性能</td> </tr> <tr> <td>(2) 配管</td> <td>通風装置</td> <td>使用</td> </tr> <tr> <td>(3) 自動制御装置</td> <td>通風装置</td> <td>性能</td> </tr> <tr> <td>(4) 自動制御装置</td> <td>煙突</td> <td>使用</td> </tr> <tr> <td>(5) 附属品</td> <td style="color:red">据付基礎</td> <td>使用</td> </tr> </table>	A	B	C	(1) 配管	据付基礎	性能	(2) 配管	通風装置	使用	(3) 自動制御装置	通風装置	性能	(4) 自動制御装置	煙突	使用	(5) 附属品	据付基礎	使用
A	B	C																																				
(1) 配管	煙道	性能																																				
(2) 配管	通風装置	使用																																				
(3) 自動制御装置	通風装置	性能																																				
(4) 自動制御装置	煙突	使用																																				
(5) 附属品	煙道	使用																																				
A	B	C																																				
(1) 配管	据付基礎	性能																																				
(2) 配管	通風装置	使用																																				
(3) 自動制御装置	通風装置	性能																																				
(4) 自動制御装置	煙突	使用																																				
(5) 附属品	据付基礎	使用																																				
254	模擬問題6(問34)の選択肢 <table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="text-align:center">A</td> <td style="text-align:center">B</td> </tr> <tr> <td>(1) 燃焼室</td> <td style="color:red">性能</td> </tr> <tr> <td>(2) 燃焼室</td> <td>性能</td> </tr> <tr> <td>(3) 吸水装置</td> <td style="color:red">性能</td> </tr> <tr> <td>(4) 自動制御装置</td> <td>使用</td> </tr> <tr> <td>(5) 自動制御装置</td> <td style="color:red">使用</td> </tr> </table>	A	B	(1) 燃焼室	性能	(2) 燃焼室	性能	(3) 吸水装置	性能	(4) 自動制御装置	使用	(5) 自動制御装置	使用	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="text-align:center">A</td> <td style="text-align:center">B</td> </tr> <tr> <td>(1) 燃焼室</td> <td style="color:red">使用</td> </tr> <tr> <td>(2) 燃焼室</td> <td>性能</td> </tr> <tr> <td>(3) 給水装置</td> <td style="color:red">使用</td> </tr> <tr> <td>(4) 自動制御装置</td> <td>使用</td> </tr> <tr> <td>(5) 自動制御装置</td> <td style="color:red">性能</td> </tr> </table>	A	B	(1) 燃焼室	使用	(2) 燃焼室	性能	(3) 給水装置	使用	(4) 自動制御装置	使用	(5) 自動制御装置	性能												
A	B																																					
(1) 燃焼室	性能																																					
(2) 燃焼室	性能																																					
(3) 吸水装置	性能																																					
(4) 自動制御装置	使用																																					
(5) 自動制御装置	使用																																					
A	B																																					
(1) 燃焼室	使用																																					
(2) 燃焼室	性能																																					
(3) 給水装置	使用																																					
(4) 自動制御装置	使用																																					
(5) 自動制御装置	性能																																					

「令和5年12月18日公布 ボイラー及び圧力容器安全規則の一部改正」  
に伴う改正内容について

令和5年12月18日にボイラー及び圧力容器安全規則の一部を改正する省令が交付・施行されました。これに伴い、『2級ボイラー技士模擬問題集』の下記該当箇所が変更となります。

頁	箇所	改正前	改正後
260	表中 電気 ボイラー の2行目	電力設備容量20 kW当たり1 m <sup>2</sup> とみなして、最大設備容量を換算した面積	電力設備容量60 kW当たり1 m <sup>2</sup> とみなして、最大設備容量を換算した面積
262 263	262頁の 最終行 から次頁 2行目まで	電気ボイラーでは電力設備容量20 kWを1 m <sup>2</sup> とみなすので、例えば400 kWは、伝熱面積20 m <sup>2</sup> に相当し、25 m <sup>2</sup> 未満となり選任可能、 <b>廃熱ボイラーは実際の伝熱面積に<math>\frac{1}{2}</math>を乗じる…。</b>	電気ボイラーでは電力設備容量60 kWを1 m <sup>2</sup> とみなすので、例えば400 kWは、伝熱面積 <b>6.67</b> m <sup>2</sup> に相当し、25 m <sup>2</sup> 未満となり選任可能、 <b>ただし小型ボイラーに区分された場合は、取扱い資格はボイラー技能技術講習修了者で可能である。</b>
264	表中 電気 ボイラー の2行目	電力設備容量20 kWを1 m <sup>2</sup> として換算した値 (例) 最大電力設備容量が500 kWの電気ボイラー → $500 \text{ kW} \times \frac{1}{20} = 25 \text{ m}^2$	電力設備容量60 kWを1 m <sup>2</sup> として換算した値 (例) 最大電力設備容量が500 kWの電気ボイラー → $500 \text{ kW} \times \frac{1}{60} = 8.33 \text{ m}^2$
274	2行目	[解答(4) 正解]	[解答(4)、(5) 正解]
274	9-10行目	電気ボイラーでは電力設備容量20 kWを1 m <sup>2</sup> とみなすので、例えば400 kWは、伝熱面積20 m <sup>2</sup> に相当し、25 m <sup>2</sup> 未満となり選任可能、 <b>廃熱ボイラーは実際の伝熱面積に<math>\frac{1}{2}</math>を乗じる。</b>	電気ボイラーでは電力設備容量60 kWを1 m <sup>2</sup> とみなすので、例えば400 kWは、伝熱面積 <b>6.67</b> m <sup>2</sup> に相当し、25 m <sup>2</sup> 未満となり選任可能、 <b>ただし小型ボイラーに区分された場合は、取扱い資格はボイラー技能技術講習修了者で可能である。</b>
274	表中 電気 ボイラー の2行目	電力設備容量20 kWを1 m <sup>2</sup> として換算した値 (例) 最大電力設備容量が500 kWの電気ボイラー → $500 \text{ kW} \times \frac{1}{20} = 25 \text{ m}^2$	電力設備容量60 kWを1 m <sup>2</sup> として換算した値 (例) 最大電力設備容量が500 kWの電気ボイラー → $500 \text{ kW} \times \frac{1}{60} = 8.33 \text{ m}^2$
275	2-3行目	(5) 選任 <b>できない</b> 。電気ボイラーは、電力設備容量20 kWを1 m <sup>2</sup> とみなすので、 $\frac{600}{20} = 30 \text{ m}^2$ となり、25 m <sup>2</sup> <b>以上</b> となる。	(5) 選任 <b>できる</b> 。電気ボイラーは、電力設備容量60 kWを1 m <sup>2</sup> とみなすので、 $\frac{600}{60} = 10 \text{ m}^2$ となり、25 m <sup>2</sup> <b>以下</b> となる。

頁	箇所	改正前	改正後
281	13-14行目	<p>電気ボイラーでは電力設備容量 20 kWを1 m<sup>2</sup>とみなすので、例えば 400 kWは、伝熱面積20 m<sup>2</sup>に相当し、 25 m<sup>2</sup>未満となり選任可能、<b>廃熱ボイ</b> <b>ラーは実際の伝熱面積に<math>\frac{1}{2}</math>を乗じ</b> <b>る。</b></p>	<p>電気ボイラーでは電力設備容量 <b>60 kW</b>を1 m<sup>2</sup>とみなすので、例えば 400 kWは、伝熱面積<b>6.67 m<sup>2</sup></b>に相当し、 25 m<sup>2</sup>未満となり選任可能、<b>ただし小型</b> <b>ボイラーに区分された場合は、取扱い</b> <b>資格はボイラー技能技術講習修了者</b> <b>で可能である。</b></p>
282	1-2行目	<p>ボイラー技士以外でも取り扱える。 電気ボイラーは、電力設備容量 20 kWを1 m<sup>2</sup>とみなすので、 <math>\frac{60}{20} = 3</math> m<sup>2</sup>となり、 小規模ボイラーの範囲<b>である。</b></p>	<p>ボイラー技士以外でも取り扱える。 電気ボイラーは、電力設備容量<b>60 kW</b> を1 m<sup>2</sup>とみなすので、<math>\frac{60}{60} = 1</math> m<sup>2</sup>と なる。小規模ボイラーの範囲<b>で、小型</b> <b>ボイラーの場合、取扱い資格はボイラー</b> <b>技能技術講習修了者で可能で、簡易</b> <b>ボイラーでは取扱い資格は不要である。</b></p>